

平成29年度 鳥取県西部地区中学校国語教育研究会報告

- 1 日時 平成29年8月1日(火) 14:00～16:50
- 2 会場 米子コンベンションセンター(第7会議室)
- 3 講師 田中 宏幸 先生(安田女子大学教授)
- 4 研修内容

〈実践発表〉 発表者：矢田貝 和志 先生 (南部町立法勝寺中学校)
単元名：生き生きと伝わる「描写」の技能の習得
～ 表現のしかたを工夫して書く ～
※本年度、岐阜県で開催される全国大会での発表内容

- 〈指導講評〉
- ・学習者の実態を踏まえ、その改善に向けた授業実践であった。
 - ・学習者を支援する丁寧な手だてが見られた。
 - ①示された複数の「結びの文」(結末)の候補から、一つ選択して物語を書く。
→ 「想」の形成
 - ②比喩、反復等を取り入れて表現を工夫する → 既有知識の活用
 - ・実践から見えた課題
 - ①何を伝えるために「描写」するのかという主題設定が明確であったか
 - ②交流から共有へ(新学習指導要領との関連)

〈講義〉 「思考力・判断力・表現力等を育てる国語科授業の開発」

- ①「描写」を求めるか、「説明」を求めるか
 - ・描写とは何か。
 - ・描写と説明の違いはどこにあるか。
 - ・描写する際の「語り手」「視点」の設定に十分な工夫はあるか。
- ②教科書教材の比較 / 学習指導要領等の改訂のポイント
 - ・「伝えたい」「書きたい」という思いを醸成させるために教材はある。
 - ・「社会に開かれた教育課程」とはどのようなものか。
 - ・「何のために学ぶのか」という学ぶ意義と三つの柱の関係性について。
 - ・「学習活動(言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など)」の質の向上とは。
 - ・「社会生活に必要な国語」「言葉による見方・考え方を働かせる」とは。
- ③「主体的・対話的で深い学び」を実現させる
 - ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とは。
 - ・「思考力・判断力・表現力」を育成するための学習の仕掛け方。
- ④実践紹介

講師の田中先生は、以前は広島大学で勤務されており、その頃より本研究会に所属する教員への助言や指導にお力を貸していただいていた経緯がある。新学習指導要領の内容が明らかになってきた現段階で、どのような授業づくりをすることが「主体的・対話的で深い学び」を生み出すことになるのか、多くの参加者が興味関心を持っていた。そういった現場感覚をしっかりと理解し、受け止めた上でのご講義はたいへんわかりやすいものであった。そして、誤解の生じる可能性も踏まえながら、あえて語られた「中学校現場での実践は現状維持で構わない」という田中先生の力強いお言葉は、参加した国語科教員に元気と自信を与えてくださるエールとなった。本研修で学んだことをそれぞれが活用し、安易な現状維持にならないよう教材研究を進めながら、2学期からの授業実践に取り組んでいきたい。